

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

活況相場では「資金効率重視」で複利効果を狙え!



日経平均株価は2008年来の高値圏に突入。株式市場は中核銘柄とテーマ物色、そして短期売買対象とで資金循環が見られる「活況相場」となってきた。

前回コラムでは「市場の関心は企業の実態面から将来性へ!」として、企業の実態面に目を瞑って将来性を買う「リスクテイク」のスタンスを紹介。「低位材料株」「仕手系株」「バイオ関連」の投資テーマで先週に販売、配信を行った厳選5銘柄付き市況分析レポート「仕手系・低位・バイオ ハイリターン投資で資産倍増を目指せ!」の提供銘柄のなかからブロッコリー(2706)、免疫生物研究所(4570)、エリアリンク(8914)、新日本科学(2395)が提供後に10%の上昇率を記録し、早期の目標株価達成を果たすなど、購読者からは市況分析によるテーマ選定、そして銘柄アプローチを評価していただいている。

ただ、活況相場だからと闇雲に物色対象を広げると投資収益は安定しないのではないか。ここは手掛けやすい低売買価額銘柄を対象に利益確定を繰り返し、回転売買による複利効果を期待した「資金効率」を意識すべきだ。

そこで弊社では、資金効率の良い「20万円以下」の銘柄を対象とした「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売する。過去5回提供し、5回連続で提供5銘柄がすべて目標株価となる10%上昇率を達成した実績テーマだ。このレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。